

# 小泉さんの80年

小泉 ハルエさん

## 小泉さんの80年

大正十四年

湧別町に生まれる。

昭和十七年

兄をセクす。

昭和二十三年

親の商店で働くため、篠舞に移住。

昭和二十六年

シベリア帰りの色男と結婚。

昭和四十年代

高度経済成長、生活が便利になる。

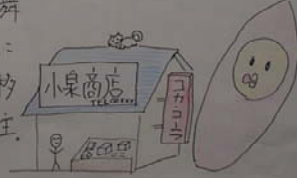
道路拡張により、商店を廃業する。

最近（昭和五十年代？）  
↓これにより、農家が減る

上下水道が完備され、生活が更に豊かになる。

平成十七年

八十歳、元気に暮らす。



## 小泉家の先祖

小泉さんの先祖は、元禄の時代に、米農家として、五百石の米を領主に納めていた。



①の写真は、その時の領収書である。また、やり名人として、やりの使用方を巻き物に記し、子孫へと受け継いだ。（写真②）この巻き物は長い。（写真③）

## 小泉家の食卓

篠舞地区は、ドクダミの群生地であり、ドクダミ茶がよく飲まれている。独特の香りがあり、美味しい。（写真①と②）また、戦争中の主食である、ジャガイモをふかしたでんぶん餅もいたった。パリパリとした食感が良かった。（写真②と③）



# 小泉家のりんご

札幌は昔、日本一のりんごの生産地であった。現在では、道路拡張の影響で農家の数は激減したが、小泉さんの娘さんはりんごの生産を続けていて、りんごワインは娘さんの育てたりんごで造ったものだ。



## まとめ

新しいものが良くて、古いものは役立たず、少なからずそう決めつけていた僕達にとって、小泉さんとの時間は、古い物の中にある価値や、昔から変わらないことの大切さに気付く、良いきっかけになったと思う。土地には必ず、その土地だけの色があって、意外とその土地の人は気付いていないけれど、外から見るとよくわかる。だから第三者の立場で土地を見つめ、その特色を当事者たちに認識させ、土地の特色を磨くことに役立てて欲しいと思った。

「何も無い所なんてない」

平成十七年七月二十七日

福木 厚・能代 幸輔・森田 徹